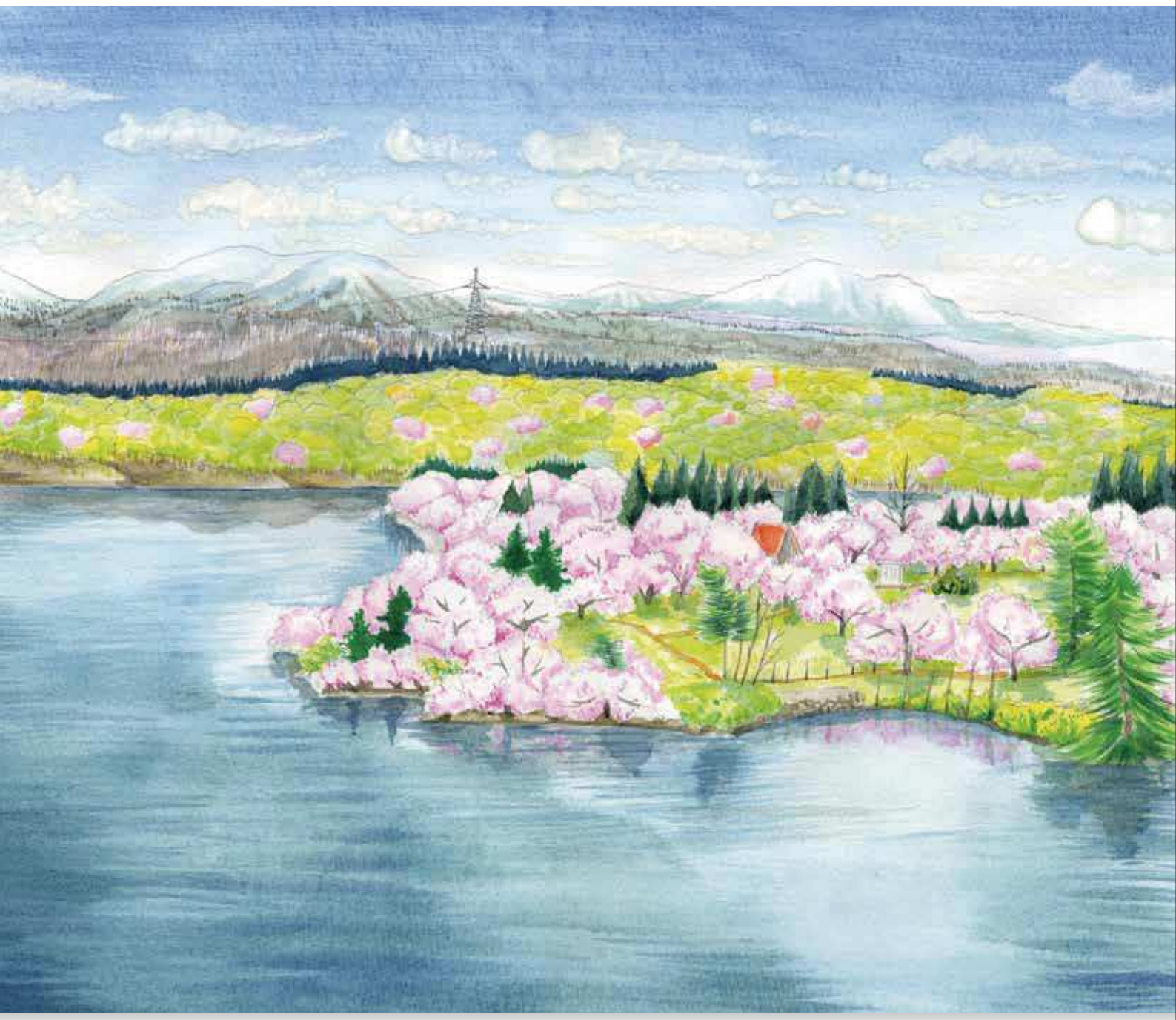
しおさい



大利から望む桜満開の早掛沼公園

CONTENTS

●特集記事 シリーズ⑰ ふるさと見聞録：古野牛川（ふるのうしがわ）を訪ねて……2
●明日へのかけはし：東通村商工会青年部……4
●クローズアップ こんにちは元気さん：南川（みなみかわ）　直樹（なおき）さん……4
●ファイト!わんぱく：東通小学校陸上部……5
●地元の特派員レポート：松木（まつき）　羽菜（はな）さん／相内（あいない）　道志（みちし）さん……6

vol.18
平成30年度発行
東北電力(株)東通原子力発電所

特集記事 東通村29の集落の特徴的風物や人物を探る！

シリーズ⑰ ふるさと見聞録

人々が協力し、ひとつにまとまる地域

古野牛川（ふるのうしがわ）を訪ねて

海の恵みに支えられた漁師まち！

津軽海峡に面した、岩屋地区と入口地区の間にある集落が、古野牛川地区です。

その名の由来は、かつて野牛川から防風林まで西へ約2km延びていた今は無き枝川が、太陽が高く昇る昼頃には川の水が無くなることから「ひなしがわ」。それが訛って「ひのしがわ」。その後「ふるのうしがわ」と呼ばれるようになったそうです。

歴史を紐解くと、享和元年（江戸時代後期）、海産物を求め福井県の越前三國港から北前船でむつに来た人たちの船が遭難し、むつに居を構えました。そのうちの三國屋の4代目、林兵衛が入口に居を構え、古野牛川に番屋を建て、鰯網漁を始めたそうです。しかし、天保9年（江戸時代後期）、漁業権の争いで入口から現在の古野牛川に移り住んだと伝えられています。明治26年、この地区には三國姓が3軒、のちに渡辺家、篠原家が居住しました。

基幹産業は漁業で、鰯、タラ漁が盛んだった明治35年頃は、野牛本村からもここに来て、納屋を建て、漁期だけ浜で過ごしました。現在も地区に住む7割の人が漁業に従事し、スルメイカ、ヤリイカ、ホタテ、サケなどを獲っています。

昭和50年から、野牛漁協はホタテの稚貝放流事業を開始し、現在も継続しており、20年前までは野牛川でサケの放流と孵化も行っていました。

漁業研究会の活動も盛んで、会員は20代から70代までの63人で磯焼けした海の復活を目指し、昆布の養殖事業、アワビの養殖などが、イカ漁の合間に行われています。

地域活動として、地区会は、豊漁祈願、ごみ拾いなどを行い、敬神会は袰崎神社と龍神様の正月祈祷、毎戸の門打ち、春と秋の例大祭、海の神様に1年の大漁と海の安全を祈願するおふなだ様を行っています。婦人たちによる、しおさいの会は、祭りなどの料理の準備、老婆会は彼岸の念仏、墓地清掃、消防団は村内を巡回。子ども育成会は、子どもたちと一緒に浜清掃などを積極的に行っています。

古野牛川は、前浜に良い漁場があるため、地元の人は子どもの頃から船に乗って漁を手伝い、技術を修得します。腕を磨き、豊漁が続いたことで、漁師の船も大型化し、後継者にも恵まれています。漁を通じて互いに協力し合い、助け合いの精神が強い、まとまりのある地域です。

龍神様

袰崎神社

龍神様に祀られている御神体

子ども育成会
北田（きただ） 稔一（なるひと）さん（35歳）

子どもたちと一緒に、春は空き瓶回収、ゴミ拾い、夏は浜清掃、秋祭りには、舟屋台を運行しています。

会員は13人です。これからは子どもたちにも能舞を教え、伝統を受け継いでもらいたいと考えています。能舞が復活したお正月の発表会には、子どもたちも出演させたいと思います。

しおさいの会
圓子（まるこ） 道子（みちこ）さん（49歳）

例大祭のときに料理を作って地域の方々をもてなしたり、村の敬老会などにも参加し、お手伝いしています。

地区にお嫁に来たら全員が会員になる習わしで、会員は20代から50代までの20人です。

集落でイベントがあればお勤めしている人も仕事を休み、地区のために心をひとつに取り組んでいます。

団員は、20代から50代までの20人。若い世代も多いですが、地域の方々の生命と財産を守るため、訓練に励んでいます。

みんなとても仲が良く、台風や災害時など、もしもの時に備え力を合わせて頑張っています。

津軽海峡から望む古野牛川地区

能舞の発表を60年振りに復活!

古野牛川地区では、昭和20年代まで能舞が行われていましたが、冬場にタコの延縄漁が盛んになると仕事が優先され途絶えてしまいました。

しかし、平成13年に地区の集会施設「しおさいの館」が建設されたとき、地区会から屋固めの依頼を受け、当時の青年団を中心に、むつ市蒲の沢会からは、ふた頭(かしら)の権現舞を、鹿橋青年会からは、式舞(鳥舞、へんざい、翁、三番叟)、武士舞(信夫、屋島)を習い、見事に能舞を復活させました。その活動が村役場からも認められ、村のコミュニティ助成金を活用して敬神会は、古くなった幕や太鼓、能舞用具を一新することができました。昨年のお正月には、60年振りに能舞の発表会を開催し、7演目を披露しました。地域の人はとても喜び、子どもたちにも伝承したいという気運が高まっています。

復活した武士舞

権現舞の獅子頭

新調した能舞幕や能面

古野牛川地区 会長　三國(みくに)　隆(たかし)さん(77歳)

古野牛川地区は、漁業が中心の集落で、現在74世帯230人が暮らしています。イカ釣り漁で日本海など他県へ行く人も多く、何にでも協力する精神が旺盛で、人の情も厚いです。台風や大雨などのときは、団結して家を守ります。将来は、漁に行く人たちの家も海辺ではなく、津波などの心配のいらない地区に上がって、安全な暮らしをすすめていきたいです。

消防団第18分団長
渡邊(わたなべ)　秀美(ひでみ)さん(55歳)

昨年のお正月には、60年振りに能舞の発表会を復活させることができました。会員は20代から40代まで14人。若い世代ですが、みんな熱心に和気あいあいと稽古に励んでいます。能舞を通じて古野牛川地区にも伝統があることを知ってもらいたいし、能舞を子どもたちにも伝え、地域に根づかせていきたいと思っています。

敬神会
三國(みくに)　貴之(たかゆき)さん(44歳)

春と秋の例大祭で、お宮へ行く道路をきれいにして、人が通りやすいようにし、秋祭りには舟屋台も曳いています。敬神会の人たちが能舞を復活させてくれたお陰で、どこに行っても舞を披露できるのは心強い限りです。明るく未来のある集落で、地区のみんなが幸せに、笑って暮らせるよう願っています。

氏子総代
氣仙(きせん)　敏彦(としひこ)さん(72歳)

明日への かけはし

東通村の頑張るグループを紹介

若いパワーで、地域を盛り上げたい！
［東通村商工会青年部］

東通村商工会青年部のみなさん

東通村商工会青年部は、東通村内で商工業を営む後継者が集まり、柔軟な発想と行動力で地域社会に貢献し、村おこしの足がかりになる活動に取り組んでいます。

設立は昭和56年。商業、飲食業、建設業などを営む、28歳から45歳までの2代目3代目の15人で頑張っています。

青年部が今、最も力を注いでいるのは、地域奉仕活動です。昨年から挑戦している「笑って過ごせる地域づくり」では、「こども園ひがしどおり」で活動を展開。節分に鬼役で登場したり、クリスマスにはサンタクロースになって子どもたちと交流しました。園の夏まつりでは、屋台で焼き鳥やフランクフルトを販売し、子どもたちを楽しませています。南谷伸治（みなみやしんじ）部長（32）は「まだ始めたばかりで手探り状態ですが、まわりからの評判も良く達成感があります。サンタに扮した際に、子どもたちから英語で話しかけられたときは、東通の人だと悟られないよう苦心しました」とにっこり。

このほか、年5回行われているトントゥビレッジのイベントや、村内のお祭りなどにも出店。来年3月までは、むつ下北地区商工会青年部連絡協議会の事務局として「下北半島WEB道の駅」を開催するなど、地区のまとめ役としても尽力しています。

「青年部の会員は、それぞれ仕事を持ちながら活動しているので、一堂に集まるのは大変ですが、異業種の会員との交流は仕事への新しい見方や考え方を教えてくれます」と南谷部長。

「今年は、東通★東風塾（やませじゅく）と一緒になり、復活させた花火大会の開催で村を盛り上げたい」と話し、今後は、この花火大会を青年部主体の活動として継続させていくことが目標と語ってくれました。

「こども園ひがしどおり」の節分で鬼に挑戦

サンタクロースになって交流

トントゥビレッジのイベントで東通牛などを販売

村内で元気に活動する人を紹介！

クローズアップ

こんにちは元気さん

元気さん

東通ヒラメ料理推進協議会 会長
南川（みなみかわ） 直樹（なおき）さん（41歳）

東通村小田野沢にある「ログレストラン南川」のオーナーシェフで、今注目の「東通天然ヒラメ刺身重」を開発した東通ヒラメ料理推進協議会の会長・南川直樹さんからお話を伺いました。

東通村小田野沢で生まれた南川さんは、田名部高校を卒業後、趣味のモーグルスキーがしたいと、カナダのリゾート地ウィスラーへ。偶然にもそこで選んだ仕事は飲食店ばかり。「2週間の滞在で、自分は料理の仕事がしたかったんだと初めて気づきました」と話します。

東京の調理師専門学校卒業後は、フレンチとイタリアンを学び、子どもの頃、釣りをして遊んでいた土地に、自らの手でログハウスを建て、6年前にレストランをオープンさせました。

「東通天然ヒラメ刺身重」の開発は平成28年から。「初めは、刺身重は和食と思い静観していたのですが、誰かが先立ちにならなければ始まらない、和にこだわらず創作料理もありかもしれないと会長を引き受けました」。

メニューの開発はチャレンジの連続。「今までファイアーグルメとして調理した、アクアパッツアの場合、貝は必須。でもヒラメだけでどうやって魚介の旨味を出すか、試行錯誤の繰返しでした」と南川さん。参加した村内3店舗で同じ料理を提供するというルールを決めていたため、メニューが決まったら共通レシピを作り、調理方法を教えたそうです。

年間の販売目標は、村の人口と同じ6000食。「達成まであと少しですが、アンケートを見ると4割の人が、これを食べるために初めて村を訪れたことを知りました。本当に取り組んで良かったと思っています」。

東通ヒラメ料理推進協議会の南川会長

全国の新ご当地グルメで、フルコース仕立ては初。ヒラメ以外も、ほとんどの食材は東通産です。「将来の夢は、たくさんの人に食べてもらい、それをきっかけにして東通村内に道の駅ができること。『東通天然ヒラメ刺身重』は、ヒラメのいろいろな食べ方や食感を堪能できる料理です。ぜひ一度、味わいに来てください」と話していました。

東通天然ヒラメ刺身重

ログレストラン南川

陸上部のみなさん

東通小学校陸上部

行動目標に礼儀、感謝、向上心を高めることを掲げ、いつも明るい東通小学校陸上部。先生や友だちにはしっかりあいさつ、グラウンドに入るときは「お願いします」、練習を終えたら「ありがとう」と声に出します。

6年生の男子部長・石田匠くんと、女子部長・伊勢田麗さんを中心に、4年生から6年生まで33人が頑張っています。昨年は下北地区の大会で団体リレー男子2位、女子3位、個人では冨沢(とみさわ)ひなのさんが女子200m1位の成績をおさめました。

練習は、監督である森翔先生と山脇隆寛先生、顧問の竹林千亜紀先生の指導のもと、水曜日をのぞく毎日、約2時間グラウンドで行われています。まずは体を温めるため、準備体操や基礎練習を行うほか、グラウンドを走ります。その後、全員で当日の練習メニューについてミーティング。短距離、長距離、走り幅跳びなど、種目ごとに練習を重ね、最後にタイムを計って記録します。

陸上は個人競技ですが、東通小学校陸上部の特徴は、みんな仲良く応援し合うこと。昨年の女子部長・大槻暖乃(おおつき はるの)さんの「『チーム陸上部』として仲間を大切に苦しい練習を乗り越えよう!」という言葉を引き継ぎ、練習に励んでいます。

タイムを意識しすぎるとフォームが崩れたり、最初は腕を振ることを意識していても途中で忘れてしまうなど大変なことは多いそうですが「あの人よりも上手になりたいという気持ちが強くなることでタイムが上がったり、運動が苦手だった人も運動を通して友だちが増えるなど、陸上部に入ってよかった」と子どもたちは話します。

保護者のバックアップも心強く、選手のみんなを我が子のように応援しています。

男子部長の石田くんは「みんなが元気にあいさつしたり、体調が悪くならないよう、部長としてしっかりみんなをひっぱっていきたい」。女子部長の伊勢田さんは「もっと早く走りたいという気持ちを忘れず、練習に取り組むみんなが大好き。特にタイムをとるときはテンションが上がります。順位よりも自分の記録が伸びることを目標に頑張りたい」と話します。

顧問の竹林先生は「陸上競技は、自分との戦いです。勝っても負けても、すべては自分の努力次第。だから、陸上をすることでたくましい心が育ちます。陸上部の子どもたちは、みんな素直で頑張り屋さん。自分に厳しく、仲間に優しく、これからも成長することを信じています」とエールを送っていました。

男子部長
石田(いした) 匠(しょう)くん
(6年)

女子部長
伊勢田(いせだ) 麗(ららか)さん
(6年)

はじめのあいさつ

しっかり準備体操

基礎練習

全員でランニング

高い位置まで「ももあげ」

全力で走ります

東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは4月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。

砂子又大発見!

東通村砂子又在住
東通小学校(6年)　松木(まつき)　羽菜(はな)さん(11歳)

私が育ってきた砂子又地区は、「東通村役場」、「田名部川の源流」、「砂子又八幡宮」、「圓流寺」、「砂子又警察官駐在所」というすごい場所が5つもあります。

みなさんは、なぜ「東通村役場」が砂子又にあるか知っていますか?それは、東通村の中心は、砂子又だからです。砂子又には、役場だけではなく「こども園」、「小・中学校」、「体育館」、「消防署」もあります。

砂子又にある田名部川源流

砂子又八幡宮

圓流寺

砂子又警察官駐在所

みなさんは、むつ市の市街地を流れる田名部川の源流が砂子又にあることを知っていましたか?田名部川の源流は、砂子又の山の中にあり、自然の中で育っているとてもきれいな川です。私の家の前の川では、毎年サケが産卵します。源流に行くには、「大作沢林道(だいさくさわりんどう)」という山の道を通らなければいけませんが、行く途中にも砂子又の美しい自然を楽しめます。源流の周辺には、「ミズバショウ」という花が咲いています。とてもきれいなので、ぜひ探してください。

田名部川源流のほとりに咲くミズバショウ

「砂子又八幡宮」には、3つの神様がいます。1つ目は、氏神様という、神様が住んでいます。2つ目は、いなり様といってきつねの神様が住んでいます。3つ目は、そうぜん様といって、牛や馬の神様が住んでいます。自然がいっぱいで、すばらしい砂子又地区に、ぜひ来てみてください!

我が憩いの地

東通村老部在住　相内(あいない)　道志(みちし)さん(57歳)

東通村の最南端に白糠と連なって老部地区があります。西を見れば山、北を見れば川、東を見れば海がある自然豊かなところです。東から吹く山背(やまぜ)では、太平洋の荒波が集落護岸に打ち寄せ、去った後は置き土産のこんぶやワカメ、たまにホヤなどが砂浜に打ち上げられます。

集落北側に位置する老部川では、カラフトマス、サクラマス、アメマスそしてサケが遡上し、秋にはその魚影を見ることが出来ます。もちろんヤマメ、イワナ、アユなどの淡水魚もたくさん生息していて釣りを楽しむことも可能です。西側に位置する山では、たくさんの山菜やきのこが採れます。春はしどけ、山うど、山葵、たらの芽、こごみなど、秋にはナラタケ、シメジ、マイタケ、ムキタケ、ヤナギタケなど種類は豊富です。

老部川から望む老部橋と石川台

こんぶ拾い

両皇神社を囲む松と杉の大木

神楽舞い(踊り獅子)

伝統芸能では、老部敬神会による元旦から3日間の神楽の門打ち御祈祷を実施し、その後、春初め御祈祷、夏に祭典御祈祷、年末は年納め御祈祷とそれぞれ両皇神社での神楽奉納を行います。老部婦人会でも小正月に各家々を回り、田植え踊りを披露しています。

樹齢四百年の松の木肌

そんな老部地区の両皇神社の境内には、社を取り囲むように樹齢四百年以上の松の木が群立して、その木々のひび割れた皮の厚さはまさに神秘さを醸し出し、この地の歴史を感じさせます。

どうぞ我が憩いの地、老部へ来てけさまい。

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について
★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

編集後記

広報誌『しおさい』第18号はいかがでしたでしょうか。

今回も、古野牛川地区のみなさんをはじめ、村内で元気に活躍する幅広い世代の方々をご紹介しました。みなさんが東通村の将来を思い、この地に夢を描き、目標に向かって励む姿に、郷土に対する深い愛を感じました。

さて、私事ですが、家族3人で村内に移り住み、まもなく1年になります。季節ごとの美しい自然や美味しい食べ物、郷土芸能、お祭りなど、多くの魅力に触れ、そのたびに村を好きになっています。

今後も、愛情をもって誌面づくりに努めてまいります。どうぞ、引き続きのご愛読をよろしくお願いいたします。